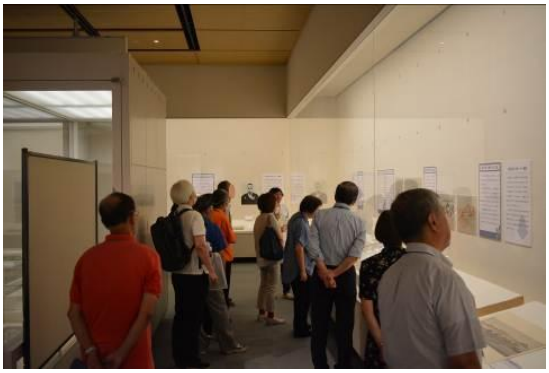
横浜市歴史博物館

「ペリー横浜上陸 170 年　サムライ Meets　ペリー With 黒船

―海を守った武士たち―」

開催期間：２０２４年7月１３日（土）～２０２４年9月1日（日）



【企画展の目標】

■ペリー再来航時、横浜市域の沿岸を守った武士たちの日記や手紙などをとりあげ、彼らの活躍や、彼らからみたペリー来航を紹介することにより、当時の、外国に対する海の守り（海防）の重要性や海防の実態、また海防から開港へ（守る海から開かれた海へ）と、横浜周辺の海の役割が変わっていったことなどを紹介し、横浜の海にまつわる歴史について、来場者の関心や理解を深めることを目標として実施した。

■展示資料を深掘りする連続講座や展示解説を実施し、展示で紹介しきれない部分を補完し、来場者の理解や興味をより深めることを目標とした。

■幅広い層に、ペリー来航や海の守りにまつわる歴史をより身近に感じてもらえるよう、ペリーの似顔絵やぬりえ体験や、武士自身に語らせるパネルを設置するなどの展示の工夫を取り入れた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

１．企画展示の内容

■開催期間：２０２４年7月１３日（土）～２０２４年9月1日（日）

■開催場所：横浜市歴史博物館　企画展示室

■入場者数：　７，００４人

横浜市歴史博物館　外観

企画展会場　入口

プロローグと第１章では、ペリー来航の概要と、外国から海を守る「海防」の基本について、絵図などから紹介している。左はペリー再来航時の横浜応接所周辺の絵図と黒船の図。右は大名の海防配置の絵図と一覧表。絵図を用いることによって、海を守る「海防」を視覚的に伝えることができた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

第２章から第４章では、横浜各地の海を守った大名ごとに藩士の記録を紹介。最前線でペリー艦隊と接した人々が記した日記や手紙から、現場の実態を紹介する。古文書の内容をより詳しく知っていただくため、武士のモノローグ調で紹介するパネルを設置した（左写真）。右は鳥取藩が警衛した本牧の絵図で、海に面していくつもの台場が描かれている。
ここでも絵図を用い、さらに武士に語らせる手法をとることにより、海を守った武士たちの実態を、より身近に感じてもらうことができた。

左は横浜応接所を警衛した小倉藩の藩医の日記。日記には挿絵もあり、ペリーや艦隊員たちの姿や道具に加え、横浜周辺の海辺の風景も描かれている。右は横浜市域の海岸図。神奈川宿付近から野島までが描かれており、開港直前の市域の沿岸の様子がわかる貴重な資料。どちらの資料も、今回の企画展が初公開となる。
横浜応接所・開港場周辺を描いた同時隊の絵図を展示することにより、海防から開港、守る海から開かれた海への変化を表した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【来館者の声】

◯日本は海に囲まれた国でもあるので、海の警護や保守は非常に重要だと感じました。黒船が来航したときから、そして現在に至るまでのその状況は続いているのだと思いました。
◯海は外国との玄関口であることをイメージすることができた。小学生でも分かり易い内容で、文字情報だけではなく、展示物が語る迫力を感じることができました。
◯資料が残っているということは、国土を守るために一生懸命な人の考えが残っていることなのだとわかりました。日本の国土はぐるりと海に囲まれているので、日本のいたるところで同じような事象があるのではないかとわくわくしました。そういった人物たちが日本という国をつないできたのだと学びました。
◯いつも注目しないような、海を守った武士の日記に思いをはせることができるのは非常におもしろかったです。

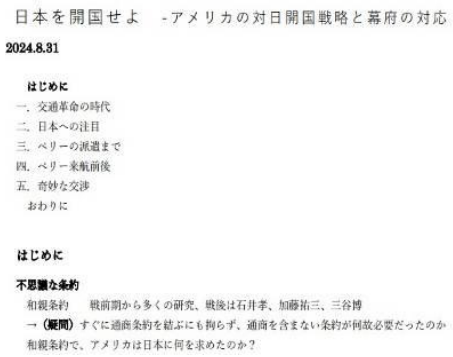
※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

２．関連事業の内容

■特別講演会「日本を開国せよ―アメリカの対日開国戦略」

【開催日時】2024 年８月３１日（土）
　　14：00 ～ 15：30
【開催場所】横浜市歴史博物館　講堂
【参加者数】１２５人
【実施内容・目的】
●小風秀雅氏（お茶の水女子大学名誉教授、日本近現代史）を講師にお迎えし、アメリカ側からみたペリー来航について講演をいただくことで、展示内容にはない視点を来場者に紹介することを目的として開催した。

開催場所の講堂（舞台から）



日本を開国せよ　-アメリカの対日開国戦略と幕府の対応

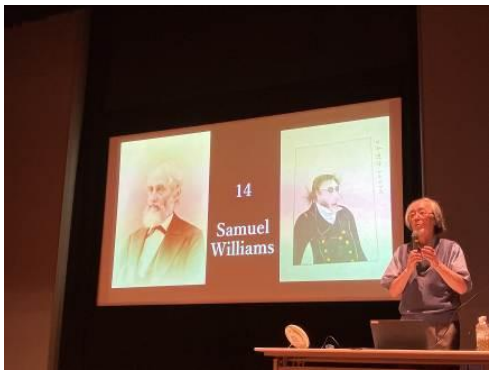
2024.8.31

はじめに
一、交通革命の時代
二、日本への注目
三、ペリーの派遣まで
四、ペリー来航前後
五、奇妙な交渉
おわりに

はじめに

不思議な条約
和親条約　戦前期から多くの研究、戦後は石井孝、加藤祐三、三谷博
→（疑問）すぐに通商条約を結ぶにも拘らず、通商を含まない条約が何故必要だったのか
和親条約で、アメリカは日本に何を求めたのか？

レジュメの一部



アメリカの太平洋航路の開設に日本の開国が不可欠だったことを、豊富な資料と堅実な考察をもとにお話しいただいた。展示で光を当てた当時の日本にとっての海と、アメリカ側からみた日本を取り巻く海の位置づけや意識の違いを、来場者に紹介することができた。

【来館者の声】

◯和親条約の本質、海の意味、意義がわかった。

◯アメリカからの視点が学べ、新鮮でした。

◯海と外交を起点にして、それぞれの国の思惑を新しく理解することができました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■連続講座「海を守った武士たち」

【開催日時】第１回 2024 年７月28 日（日）14：00～15：30
第２回 2024 年８月４日（日）14：00～15：30
第３回 2024 年８月25 日（日）14：00～15：30
【開催場所】横浜市歴史博物館　講堂
【参加者数】第１回：９９人　第２回：７８人　第３回：１１４人
【実施内容・目的】
●展示資料のメインである武士たちの記録(古文書)や絵図を読み込む講座。最前線でペリー艦隊に対応した武士が記した資料を読み解き、沿岸警衛の実態や日常の出来事、当時の横浜と周辺地域の海辺の様相について紹介し、当該期のペリー来航と海防など、海にまつわる歴史について、より深く知っていただくことを目標とした。

開催場所の講堂（客席から）

講堂舞台遠景

第１回の「横浜・金沢を守った武士たち」では、武州金沢藩、小倉藩、松代藩の藩士が記した記録から、沿岸の警衛や応接所の警衛の様子、外国人との交流などを読み解いた。あわせて、彼らが見た当時の横浜の海辺の村々のすがたについても紹介し、来場者の理解を促進した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

第２回「本牧を守った武士たち」では、本牧に陣を置いた鳥取藩と松江藩の記録を読み解いた。両藩の海防の実態に加え、海防の重要地点であった本牧の地理的特徴などについても知っていただくため、絵図などを用いて詳しく紹介した。

第３回「絵図から読み解く海防と開港」では、横浜開港資料館調査研究員の神谷大介氏を講師に迎え、絵図として表現された異国船や海防体制を紹介し、横浜開港に至る歴史的経緯を探った。講座の中で、企画展にて展示中の、開港直前の横浜市域の沿岸部を描いた絵図を詳しく考察し、展示内容をより深く理解できる内容となった。

【来館者の声】

◯今の横浜における「海」と 200 年近く前の「海」を重ね合わせることができました。とくに地元に住む人にとっては生き生きとしたイメージになったと思います。（第１回）
◯四方を海に囲まれている日本の海防は大変だったのだなあ。鳥取藩の海防の本気度がわかりました。（第２回）
◯海防から開港への流れがよくわかりました。海を守ること、開くことの双方を学びました。（第3回）

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■展示解説（フロアレクチャー）

【開催日時】第１回：２０２４年7月２７日（土）14：00～15：30
第２回：２０２４年８月10日（土）14：00～15：30
第３回：２０２４年８月24日（土）14：00～15：30
【開催場所】横浜市歴史博物館　企画展示室
【参加者数】第１回：３７人　第２回：３４人　第３回：３７人
【実施内容・目的】

●展示担当者が、参加者とともに展示室をまわって展示内容や資料について解説した。担当者の言葉で直接解説することにより、本展で目標とする、海防の実態や海の役割の変化（守る海から開かれた海へ）などについて、観覧者の理解を深めることを目標とした。

●資料を直接見ながら解説することで、当該期の海と横浜の歴史とのかかわりを視覚的に伝えることも目標とした。

開催場所：企画展示室

開始時に集まった参加者たち

担当学芸員が直接展示の趣旨や展示資料を紹介することで、海防の実態や、ペリー来航から開港期にかけての横浜にとっての海の役割の変化など、横浜と海に関する歴史について、来場者がより関心や理解を深める機会とした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

多くの方にご参加いただき、熱心に最後まで耳を傾けてお聴きくださっていたのが印象的だった。

【来館者の声】

◯日本を守るには、海の警備が重要だと思った。

◯横浜の海が今も昔も外国と関わる重要な拠点になっていたことを学びました。

◯横浜の海が「戦場」から「貿易の港」に変わってゆく過程から、海が世界の国々や文明を結び、平和を作ってゆくのだと感じました。

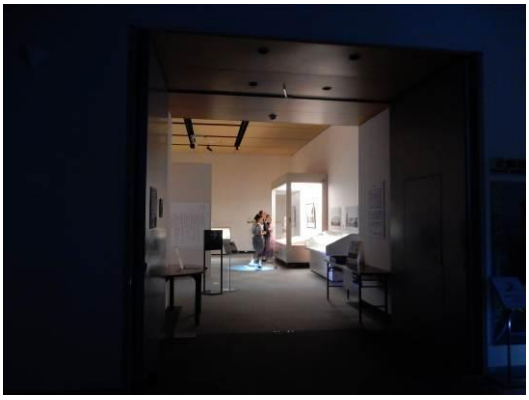
※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■親子向けナイトミュージアム

【開催日時】２０２４年8月１７日（土）１７：３０ ～ １９：００
【開催場所】横浜市歴史博物館　企画展示室・常設展示室
【参加者数】２１人
【実施内容・目的】
●夜の博物館を探検し、楽しみながら展示を観覧してもらう企画。展示解説（フロアレクチャー）よりさらにわかりやすい言葉で、資料を限定して解説を行うことで、観覧者が海防やペリー来航と横浜のかかわりを気軽に楽しく、身近に感じられることを目的とした。

開催場所の企画展示室

受付のようす



ワークシートも活用しつつ、展示担当者がかみ砕いた言葉で解説を行った。解説後のフリータイムでは、親子で会話をしながらワークシートに挑戦する参加者の方も多く、楽しみながら海防やペリー来航を学ぶ機会にできたと考える。

【来館者の声】

◯横浜は海に縁の深い土地だと思いました。

◯世界とつながっていることを学びました。

◯150 年前、大きな船とはいえ、よく長い旅が出来たなと思った。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■ペリーの似顔絵をかこう・ぬろう

～博物館をペリーの絵でうめつくそう！～

【開催日時】２０２４年7月１３日（土）～8月３１日（土）
【開催場所】横浜市歴史博物館　エントランスホール
【参加者数】１，３５２人
【実施内容・目的】
●低年齢層の来場者に、ペリー来航と海の守りについての歴史への興味の第一歩としていただくことを目標とし、自由にペリーの似顔絵を描く、または浮世絵をもとにしたぬり絵をするコーナーを設置した。作品は会期中、博物館内に掲示した。

開催場所のエントランスホール

受付で好きな用紙を選択

自由に絵を描ける白紙の用紙と、浮世絵をもとにしたペリーの顔のぬり絵５種類を用意し、好きな用紙を選び、お絵かきまたはぬり絵ができるコーナーを設けた。低年齢層の来場者が、ペリー来航や横浜の歴史について興味を持つはじまりになり、展示の観覧につなげることを期待して企画した。

連日、子供から大人まで幅広い層の方々に参加いただき、多種多様なペリーの顔が続々と集まった。最終的には 1,352 枚のペリーの顔が集まり、博物館の壁が埋め尽くされた。作品を提出した小中学生は観覧料無料としたこともあり、参加者の多くが展示も観覧くださった。

【来館者の声】

◯ペリーのことがよく知れたし好きになった。

◯海は人と人とをつなぐ一つの道なんだと感心しました。

◯近くに海がないのですが、子供が海に興味を持ってくれたのが良かった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■ペリー来航以前の異文化とのであい『絵本　朝鮮通信使』原画展

【開催日時】２０２４年7月１３日（土）～９月１日（日）
ワークショップ：第１回：９月１日１０：００～１１：３０
第２回：９月１日１３：００～１４：３０
展示解説：９月１日１５：００～１５：３０
【開催場所】横浜市歴史博物館　常設展示室
【参加者数】観覧者７，００８人　ワークショップ２人　展示解説３７人
【実施内容・目的】

●江戸時代に来日した外国人である朝鮮通信使を紹介した絵本の原画を展示し、ペリー来航以前、海を越えた外国とのつながりがあったことや、海路・船などについて、ペリー来航との比較も楽しみながら関心を持ってもらうことを目標とした。横浜市域の古文書をあわせて展示し、朝鮮通信使と横浜の関わりについて知ってもらうことも目標とした。

●絵本の原画を担当した作者の方を講師にお招きし、ペリー展で展示されている絵画資料に登場する道具の実物を描くワークショップを開催し、展示への興味を深めることも試みた。

開催場所の常設展示室

展示の様子

絵本の原画を展示することで、ペリー来航以前の外国との交流や、通信使がたどってきた海路などについて、目で見て楽しく知っていただくことを意図した。あわせて横浜の古文書を展示し、朝鮮通信使と横浜のかかわりについても紹介した。９月１日には原画の作者である綱本武雄氏を講師に迎え、企画展に登場する資料の実物を描くワークショップと、原画展の展示解説を実施した。来場者、参加者の方には、ペリー以前にも海を越えた異文化交流があったことについての気づきや興味を持っていただけた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【来館者の声】

◯企画展の展示物に描かれている道具の実物を実際に見て描けて楽しかった。
　資料の解説もあり、海防を担った人たちを身近に感じた（ワークショップ）。
◯原画の作者の先生の解説を聞き、海を渡ってやってきた朝鮮通信使の歴史がよく分かった（展示解説）。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【事業全体のまとめ】

「海の学び ミュージアムサポート」の支援をうけることにより、印象的な質の高い広報印刷物を作成することができ、来場者増加の一因となった。

海防という、一般の方にはなじみのないテーマであったが、多くの来場者に興味を持っていただけるよう、現場の武士に語らせるなどの工夫を解説パネルに取り入れたことによって、理解度も深めることができた。また絵図を多く展示したことにより、視覚的にも海岸や海と歴史を結び付けて考えていただけたと思う。

歴史の展示の場合、人物や事件などが注目されがちであるが、今回「海の学び」という視点を取り入れたことによって、現在も身近にある横浜の海と歴史が大変深くかかわっていることや、歴史が現在にもつながっていることを、博物館の担当者側も再認識し、解説などで来場者に発信することができた。“海に囲まれた日本にとって海は外界とのつながりにおいて重要”、“そしてその海を守る（海防）ことも重要だと感じた”といった回答がアンケートに複数寄せられ、来場者にも意図がきちんと伝わったことがわかった。

3．主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1．横浜開港資料館	ハイネ原画の両館での展示、連続講座講師派遣
2．「嶋屋」友の会	朝鮮通信使原画展の実施
3．	
4．	
5．	

4．主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1．タウンニュース都筑区版	ペリー来航 170 年の記念展_歴博で 13 日から
2．東京新聞横浜神奈川版	黒船来航　武士はどう見た？
3．タウンニュース都筑区版	米の対日開国戦略に迫る_8 月 31 日、横浜市歴史博物館
4．読売新聞	ペリー来航　藩士の記録
5．しんぶん赤旗	企画展「サムライ Meets ペリーWith 黒船」

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。